



# 早良組 だより



## 熊本地震 から4年

震災直後の専壽寺

「はじめに」  
平成28年熊本地震から4年で4年が経とうとしています。この地震は熊本はもとより近隣地区にも甚大な被害をもたらしました。本願寺派熊本教区では241ヶ寺が被災し門信徒33名が亡くなられました。寺院の本堂は21ヶ寺が全壊、25ヶ寺が大規模半壊、69ヶ寺が半壊、106ヶ寺が一部損壊したのです。このたび震災から4年を迎える被災地を訪ねてきました。が「ブルーシートが掛かったままの住宅、更地の境内など各所に残る地震の爪痕が垣間見えました。」



本堂跡地(光輪寺)

そんな中、「やはりお寺は地域の居場所だから」とご門徒さんが立ち上がって下さり再建を果たした寺院や、「いつもお寺は門徒のためにある」と言っているのだから、今こそ我々門徒が一致団結しましょう」とご門徒が中心となって再建を計画されている寺院もありました。しかしそんな寺院ばかりではありません。更地のまま再建

計画が進んでいないお寺もまだまだあるのです。「まだ4年」そんな言葉が頭をよぎりました。「復旧」と「復興」という二つの言葉があります。辞書の定義によりますと復旧とは元通りにすることであり、復興とは再び盛んにすることでありました。単に建物を元通りにするだけではなく、そこで暮らす人々が再び心豊かに暮らしていけるよう支援を続けなければと思いを新たにしました。

## 早良組の活動紹介



### 門徒代表者協議会

会長 鳥飼陸夫(明光寺)



当会は早良組33ヶ寺の門徒の代表者が集まった会です。担当法中と10名の常任委員会が中心となって実践運動の推進と研修会を実施しています。

各寺院の運営や活動を報告し合い、学んだことを自坊の活動に活かし、一泊研修旅行は会員相互の親睦をはかる場となっています。



### 門徒推進員連絡協議会

会長 細川淳治(光源寺)



門徒推進員とは早良組で開催される連続研修会を終了し、本山での中央教修を受講した者です。

推進員の活動は所属寺の法要や諸行事への参加を第一とし、協議会としては早良組連続研修会のお手伝いやバス一日研修などがあります。おかげさまで南無阿彌陀仏のお法りに出遇わせていただいています。



### 仏教壮年会

理事長 太田喜之(徳常寺)



早良組33ヶ寺中、仏壮結成31ヶ寺、結成率94%というのは、全国平均25%、熱心といわれる福岡教区平均63%からしてもダントツの結成率であるとともに、その寺の多くが結成40年以上というのもすごいことです。こうした先代からの努力で続けられてきた活動は、総会・全体会に始まり年2~3回の学習会、当番で開催する仏壮報恩講、年末の全体懇親会まで、毎回ほぼ100名の参加をいただいています。これからも活動を通して、各寺へのお参りと交流のきっかけを目指せたらと思います。



### 仏教婦人会

会長 山本治子(遣通寺)



婦人会の主な活動としては、年に5回から6回の各お寺の会長が集まる会長会、隔年で行う1日研修と1泊研修があります。

ご法話を聴聞させていただく機会であり、情報交換の場となっています。おしゃべりに花が咲き、賑やかで、和気あいあいとした雰囲気です。



### 仏教若婦人会

会長 宗法子(真正寺)



早良組若婦人会は「如来様の喚び声のなか」を年間目標として「はじめて法話を聞く人のつどい」の開催や、1泊研修・実践運動を行なっております。組内の若婦人会の皆様とお話しが出来、見聞を広めています。

まだまだ学びの途中ですが、皆様と一緒にお願いさせていただけたらと思っています。



### 青少年部



「仏の子の育成を願って」

早良組青少年部ではお念仏申す仏の子の育成のために、夏休みに「夏の集い」冬休みに「こども報恩講」春休みに「花まつり」を実施してきました。バスツアーやワークショップなど新しい企画に取り組み、たくさんの参加者があったこと、ここに感謝申し上げます。これからもたくさんの「仏の子」が育つことを願っています。



### 令和元年度 報恩講スタンプラリー表彰式

2月26日(水)重留真正寺にて、早良組スタンプラリーの表彰式を執り行いました。表彰者は左記の通りです。30ヶ寺以上参拝の方には表彰状と記念品を、10ヶ寺以上の方にはそれぞれ記念品を組長より贈呈していただきました。また、真教寺ご住職のご法話を聞かせていただいた後にお茶をいただきながら、お参りの感想やご苦労をお話いただきました。

今年まで4年間開催しました早良組スタンプラリーへのご協力、ご参加ありがとうございました。たくさんのお聴聞のご縁に遇っていただきましたことお礼申し上げます。



- 33ヶ寺
  - 嶋田 厚枝様(西光寺)
  - 松崎 純子様(万徳寺)
  - 三苦 淳一様(真教寺)
- 10ヶ寺以上
  - 松永 清光様(万正寺)
  - 齋藤 涉様(明性寺)
  - 水崎カツ子様(西教寺)
  - 溝口 令子様(真正寺)
  - 正崎 朋子様(西教寺)
  - 鳥飼 秀則様(光明寺)
  - 立野 糸音様(顕乗寺)
  - 中村 忍様(明性寺)
  - 田坂加津子様(明性寺)
  - 原田 信彦様(浄覚寺)
  - 熊谷 幸様(那珂組西林寺)



# 早良組だより

## バックナンバーのご紹介

早良組だよりのバックナンバーは「早良組ホームページ」に掲載されています。ダウンロードして印刷もできますのでご利用ください。



**お持ちですか?**  
敬いの気持ちとカタチ  
50号 平成28年秋号

蓮如上人は「お念珠を持たずに礼拝することは阿弥陀さまを手づかみにするようものです。」とお念珠を持つことをすすめてくださっています。お寺にお参りの際は大切な法具である「聖典・念珠・式章」の携行を心がけましょう。



**「御文章」に込められた思い**  
51号 平成29年春号

「御文章」とは、蓮如上人がご門徒にお書きになったお手紙で、浄土真宗のみ教えをわかりやすく伝えようとなされたものです。蓮如上人のご一生を伺いながら、「御文章」に込められた思いを味わわせていただく内容となっています。



**人生の節目は仏前で**  
52号 平成29年秋号

人は生まれて成長し、年を重ねていきます。その人生の節目節目には様々な通過儀礼があります。この度は、「人生の節目をお寺(仏様の前)で迎えませんか」という思いで、仏式での儀礼についていくつかご紹介いたします。



**お説教と落語**  
53号 平成30年春号

私たちの日常生活の中には様々な形で仏教が息づいており、伝統的な芸能においても、仏教の影響を強く受けているものがたくさんあります。「落語」もその一つです。このような視点で、落語をはじめとした「話芸」の源流に迫ってみました。



**御絵伝**  
54号 平成30年秋号

親鸞聖人のご遺徳を讃仰するために、そのご生涯の行蹟を絵で描いたものが「御絵伝」です。ここでは四幅の「御絵伝」の一つ一つの場面をうかがいながら、親鸞聖人のご苦勞を偲ばせていただきました。



**お釈迦様のご生涯**  
55号 平成31年春号

私たち浄土真宗の念仏者は法名をいただき仏教徒として歩ませていただいております。改めて仏教がどのようにして起こっていったのかを知るべく、お釈迦様の80年のご生涯をたどりました。



**かくれ念仏**  
56号 令和元年秋号

今からわずか140年前まで薩摩を中心に300年にもわたり浄土真宗が禁止されていました。その弾圧は凄惨なもので、今でもその悲話は語り継がれています。自由にお念仏ができない民衆は、ひそかに山の中や洞穴などでお念仏の灯を守っていかれました。改めてかくれ念仏とはどのようなことであつたのかを学びましょう。



震災前の本堂



本震直後



再建を果たした本堂

熊本地震で被災されたシンボルのようなお寺が益城町の専壽寺さんです。4月14日の前震によって築130年の本堂が半壊し、御本尊を運び出す緊迫した様子が写されています(写真1・2)。この時の熊本教区教務所長は4月に東北から異動になったばかりで、東日本大震災の教訓で半壊の本堂から御本尊を移動するよう勧められたそうです。その後4月16日未明の本震により本堂は全壊します。



写真1



写真2

### 専壽寺

ようやく再建を果たされました。近隣には再建できないご家庭や寺院もあり、「とても落慶法要をする気持ちにはなれない」と御住職が複雑な心境を語ってくださいました。

# 想像を超えた被害状況

熊本教務所では震災発生より「現地緊急対策本部」を設置し、対応に追われたそうです。様々な資料から被害の大きさが見えてきました。



## ●「平成28年熊本地震」概要

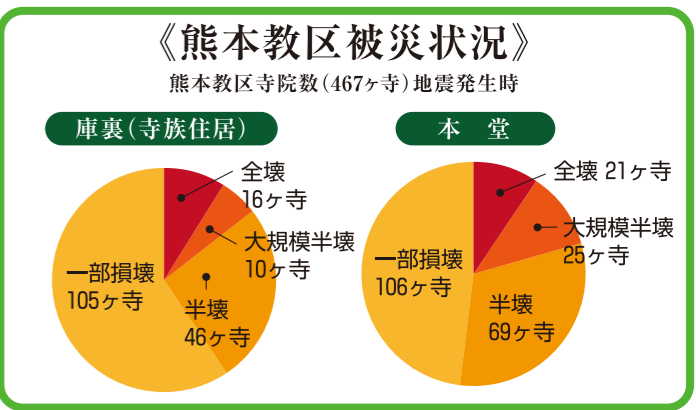
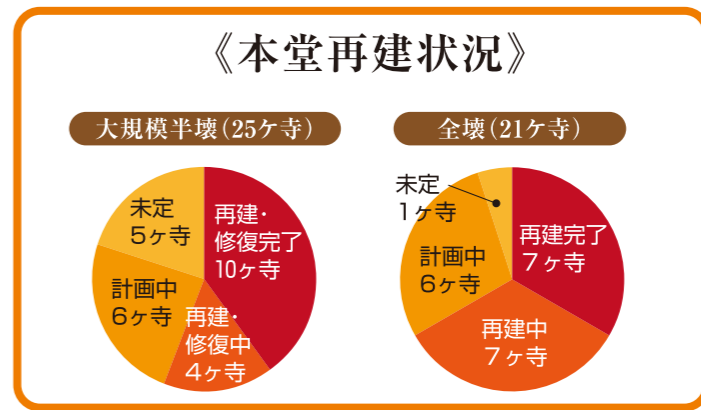
前震 4月14日 21:26 マグニチュード 6.5 最大震度 7 (益城町)  
本震 4月16日 1:25 マグニチュード 7.3 最大震度 7 (益城町・西原町)  
前震以降、震度6以上を観測する地震が7回発生、うち2回は震度7。震度1以上を観測する地震が、1年間で4,297回発生。

## ●熊本県内の被災状況 (平成31年3月4日現在)

死者 270人(直接死 50人 震災関連死 215人 二次災害死 5人)  
負傷者 2,737人  
建物 住宅 198,448棟



熊本教区現地緊急災害対策本部にて



# 引き続き復興に向けた取り組みを

熊本では、ようやく解体が終わり、これから再建に向けた工事が始まるお寺もたくさんございます。引き続き皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

義援金振込先：ゆうちょ銀行 01780-5-167462 益北組義援金 担当:徳尾真龍(光宗寺)



## 震災に備えて

自然災害は、人間の力ではくい止めることができません。しかし、災害による被害は日頃の備えによって減らすことが可能です。災害は必ず起こるもの、という心構えでの備えが大切です。

<b>ウォータータンク</b> 震災時は水道が止まる可能性もあり、その際は給水車に頼ることになります。ペットボトルなどでは容量が少ない為、ウォータータンクを用意しておけば安心です。	<b>浄水器</b> 震災時は、水道水も濁ることがあるそうです。その際浄水器があると生活水としても活用できるので、簡易のものでもあれば便利です。	<b>ブルーシート</b> 雨漏りを防ぐ、割れた窓を塞ぐ、地面に引く、簡易テントとして設置等、様々な用途に活用できます。	<b>サラララップ</b> 皿にまいて食事をすれば洗い物ができません。また、ケガによる止血や応急処置、包帯の固定等、非常に万能です。	<b>ラジオ</b> 被災時には情報を得ることが重要です。情報が錯綜する中で、確実なのはラジオによる情報です。	<b>充電器</b> スマートフォンは大変便利ですが、充電が切れてしまつては意味がありません。コンセントのいない乾電池式のものや、容量の大きなものが役立ちます。	<b>水</b> 通常売られているペットボトルの水は、保存期間が1~2年ほどですが、防災備蓄用の水は5~7年ほどの保存が可能です。
---	---	---	---	--	---	--